

単 元		
一年 いにしへの心にふれる	氏 名	年 組 番
	/	

古文の言葉の意味を覚えよう

古文には今では使われない言葉や今とは違う意味で使われている言葉があります。

- 例 ・よろづ ↓ いろいろな
- ・あやし ↓ 不思議に 妙に
- ・いと ↓ たいへん あまりに とても
- ・うつくし ↓ かわいらしい
- ・みたり ↓ 座っていた
- ・さすがに ↓ やはり
- ・あまた ↓ 数量の多いさま たくさん

歴史的仮名遣いを知ろう

古文の歴史的仮名遣いは現代仮名遣いに直して読みます。

原則1 語中・語尾の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は、「わ・い・う・え・お」に。

例 にほひ ↓ におい

原則2 「ゐ・ゑ・を」は「い・え・お」に

例 ゐど ↓ いど

原則3 「ぢ・づ」は「じ・ず」に

例 ぢめん ↓ じめん

原則4 「む」は「ん」に

例 なむ ↓ なん

原則5 「くわ・ぐわ」は「か・が」に。

例 くわし(菓子) ↓ かし

その他 やうす ↓ ようす まうす ↓ もうす けふ ↓ きょう てふてふ ↓ ちようちよう

ちやうちん ↓ ちようちん きやうげん ↓ きようげん

古文の言葉は、今とは違う意味で使われているものもあります。「あやし」や「いと」のように、よく使われる言葉はしっかり覚えておきましょう。



歴史的仮名遣いは、古文を音読していくうちに理解が深まります。暗記するくらいまで、何度も声に出して読みましょう。



単元	年組番	10問
一年 いにしえの心にふれる	氏名	

1 次の文章を、一度声に出して読み、あとの現代語訳の( ) にあてはまる言葉を、ア〜クから選び、記号で答えなさい。

今は昔、竹取の翁と①いふものありけり。野山にまじりて竹をとりつつ、よろづのことに②使ひけり。名をば、さぬきのみやつことなむいひける。

その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。あやしがりて寄りて見るに、筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いと③うつくしうてゐたり。

現代語訳

今ではもう( 1 ) のことだが、竹取の翁とよばれる人がいた。野や山に分け入って竹を取っては、( 2 ) 物を作るのに使っていた。( 3 ) をさぬきのみやつこといった。

(ある日のこと、)その竹林の中に( 4 ) の光る竹が一本あった。( 5 )、近寄ってみると、筒の中が光っている。それを見ると、(背丈)三寸ほどの人が、まことに( 6 ) 様子で( 7 ) いた。

ア 名前    イ かわいらしい    ウ めずらしい    エ 昔    オ 座って  
 カ いろいろ    キ 根元    ク おとなしく    ケ 不思議に思っ

- 答 1 ( ) 2 ( ) 3 ( ) 4 ( )  
 5 ( ) 6 ( ) 7 ( )

2 右の文章中の \_\_\_\_\_ 線の言葉を現代仮名遣いに直してすべてひらがなで書きなさい。

- 答 ① いふ ( )    ② 使ひけり ( )    ③ うつくしう ( )

単元	氏名	年組番
一年 いにしえの心にふれる		
		8問

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

今は昔、①竹取の翁といふものありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、②よろづのことに使ひけり。名をば、さぬきのみやつことなむ③いひける。  
その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。④あやしがりて、寄りて見るに、⑤筒の中光りたり。⑥それを見れば、三寸ばかりなる人、いと⑦うつくしうて⑧みたり。

現代語訳

今ではもう昔のことだが、竹取の翁とよばれる人がいた。野や山に分け入って竹を取っては、いろいろな物を作るのに使っていた。名前を、さぬきのみやつこといった。(ある日のこと)その竹林の中に、根元の光る竹が一本あった。不思議に思って、近寄って見ると、筒の中B光っている。それを見ると、(背丈)三寸ほどの人が、まことにかわいらしい様子で座っていた。

(1) ② よろづ (2) ③ いひける を現代仮名遣いに直しなさい。

答 ( ) ( ) ( )

(2) ④ あやし (3) ⑦ うつくし の意味を、現代語訳の中から探して書きなさい。

答 ④ ( ) ( ) ( )

(3) ⑤ 筒の中 のあとに省略されている、現代語訳のBに入る語を、ひらがな一文字で書きなさい。

答 ( ) ( )

(4) ① 竹取の翁 の名前を、古文中から書き抜きなさい。

答 ( ) ( )

(5) ⑥ それ は何を指しているか。古文中から三文字で書き抜きなさい。

答 ( ) ( )

(6) ⑧ みたり の主語は誰か。古文中から八文字で書き抜きなさい。

答 ( ) ( )